

キウイ粘性物質の物性

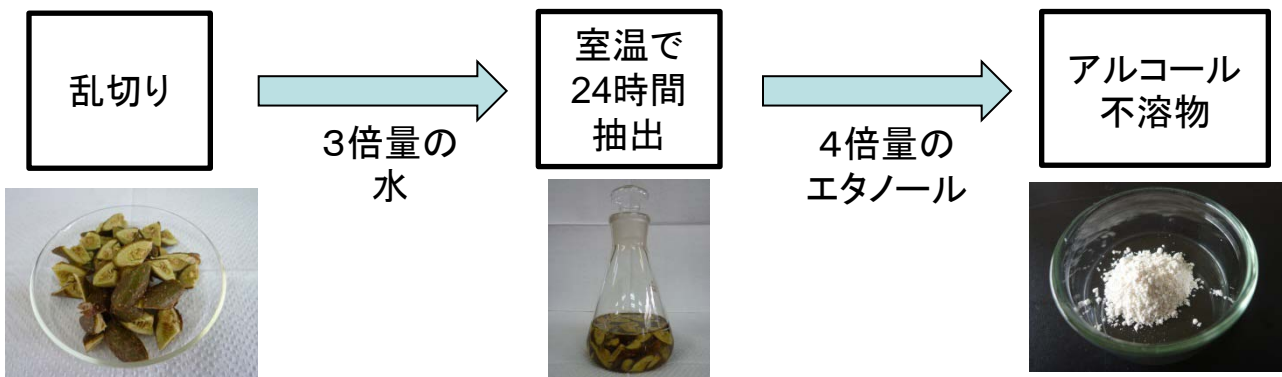
— 粘性物質の増粘剤への利用に関する研究 (H26) —

愛媛県産業技術研究所 技術開発部 主任研究員 亀岡 啓

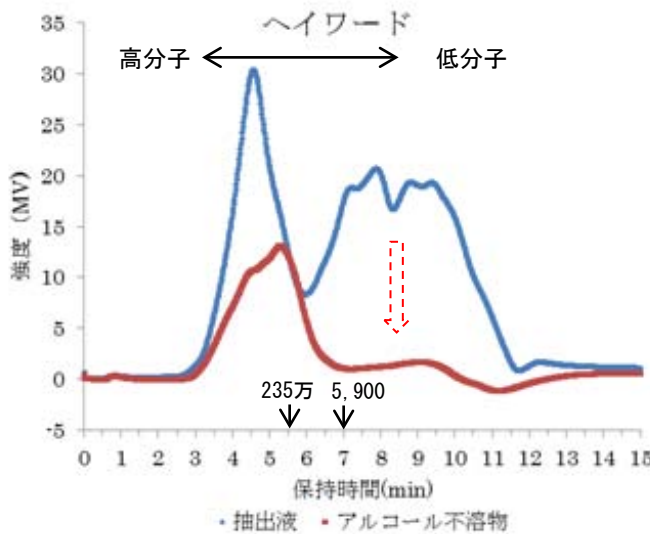
愛媛県は、全国一のキウイフルーツの生産地ですが、栽培時に発生する年間約2万トンの剪定枝は、すべて廃棄され有効活用されていません。

そこで、キウイフルーツの剪定枝に含まれる粘性物質の有効利用を目的として、粘性物質の抽出法や物性について検討しました。

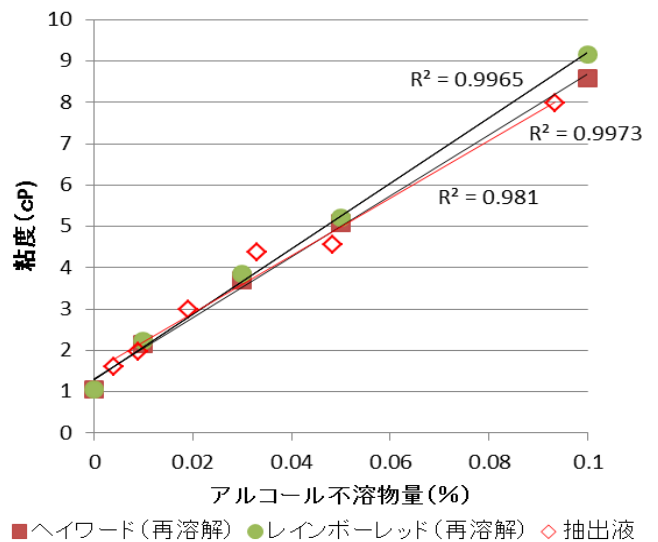
粘性物質の抽出



粘性物質の物性



分子量が数百万以上のタンパクを含む多糖類



アルコール不溶物量と粘度が直線関係

キウイフルーツの剪定枝に含まれる粘性物質の抽出法や物性について基礎的な知見を得ることができました。特に、アルコール不溶物の乾燥体は、長期保存も可能で、濃度を調整することによって、目的とする粘度の水溶液が得られることが分かりました。今後、この粘性物質を利用した化粧品等関連製品等の開発の際に、これら知見の活用が期待されます。